

巻 頭 言

第 10 回日本ジェネリック医薬品学会学術大会を迎えて

私がジェネリック医薬品に関心を持ったのは、今から 18 年も前の 1998 年のことだ。この年の前年、アジア通貨危機が東南アジアを襲った。この時、私はこの通貨危機がアジアの医薬品流通に与えた影響を調査するためにインドネシアに調査旅行に出かけた。

その調査旅行で、私はインドネシア政府のジェネリック医薬品への力の入れように目を見張った。当時、インドネシア政府は半官半民のジェネリック医薬品を製造する公社 3 社と流通させる公社を 1 社も持ち、2 億人の人口を抱える広大なインドネシア全土にジェネリック医薬品普及を強力に推し進めていた。当時のインドネシアの国民医薬品費は国民 1 人あたり年間わずか 6 ドルだった。この貴重な 6 ドルを有効に活用して全インドネシア国民に医薬品を持続的に供給していた。これには安価なジェネリック医薬品が欠かせない。これを見て初めてジェネリック医薬品のパワーを実感した。

もちろん日本とインドネシアでは全く医療事情が異なる。しかし貴重な医療費を大切に使うこと、そして全国民が医薬品の恩恵を等しく受けるためにジェネリック医薬品が欠かせないという事情は、実は今の日本にも当てはまる。こうした経験をして日本に帰ってきた私は、2003 年から有志のみなさんと「ジェネリック医薬品研究会」を立ち上げ、その普及活動を始めた。そしてその研究会を母体として、2007 年から現在の「日本ジェネリック医薬品学会」が発足する。以来、今年で 10 回目の学術大会を迎え、また本誌も第 10 巻を迎えることとなった。

この 10 年間にジェネリック医薬品の普及率は日本でも 30% から 60% へと倍増する。そして 2015 年 6 月政府は、ジェネリック医薬品普及目標を以下のように発表した。「2017 年までに 70% 以上、2018 年度から 2020 年度末までの間のなるべく早い時期に 80% 以上」。これは、まさに日本ジェネリック医薬品学会がかねてより提言していた「2020 年までに 80%、すなわち 2080 運動」が現実のものとなった瞬間だった。

しかし 2020 年までに 80% の実現は、これまでのジェネリック医薬品普及の延長線上にあるとはとても考えられない。これまでの世界とは異次元世界の到来だ。この世界へ向けてジェネリック医薬品を取り巻く関係者全てが、これから変わらなくてはならない。「2080」で医療機関も変わる、薬局も変わる、医薬品卸も変わる、製薬メーカーも大きく変わるだろう。

第 10 回学術大会は私が大会長を務めさせていただき、2016 年 7 月 9 日、10 日、昭和大学旗の台キャンパスで開催する。大会の全体テーマは「ジェネリック 2080 世界が変わる」とし、シンポジウムには「後発医薬品ロードマップ検証検討委員会より」、「ジェネリック医薬品を有効活用するためのフォーミュラー」、「GE80%、薬局が変わる」、「地域包括ケアシステムとジェネリック」、「20 年 80% 時代を勝ち抜くための企業戦略」、「医療に活かすジェネリック医薬品の情報」、「バイオシミラーの更なる使用推進をめざして」など最新のトピックスを上げさせていただいた。第 10 回学術大会で 2020 年の世界を、みなさんと一緒に展望してみたい。

2016 年 6 月

日本ジェネリック医薬品学会代表理事
国際医療福祉大学大学院医療経営管理分野教授

武 藤 正 樹